

2018年10月26日

## 新規シデロフォアセファロスポリン抗菌薬セフィデロコルの臨床試験結果 *The Lancet Infectious Diseases* 誌での掲載について

塩野義製薬株式会社（本社：大阪府中央区、代表取締役社長：手代木 功、以下「塩野義製薬」または「当社」）は、当社が創製し開発を進めている新規注射用シデロフォアセファロスポリン抗菌薬セフィデロコル（cefiderocol、開発コード：S-649266）について、複雑性尿路感染症における二重盲検比較試験（APEKS-cUTI 試験）の良好な結果が *The Lancet Infectious Diseases* に掲載されましたので、お知らせいたします（APEKS: *Acinetobacter baumannii*、*Pseudomonas aeruginosa*、*Escherichia coli*、*Klebsiella pneumoniae*、*Stenotrophomonas maltophilia*）。

掲載論文のタイトルは、「Cefiderocol versus imipenem-cilastatin for the treatment of complicated urinary tract infections caused by Gram-negative pathogens: a phase 2, randomised, double-blind, non-inferiority trial」です（論文への[リンク](#)）。

APEKS-cUTI 試験は、腸内細菌科細菌のみならず、緑膿菌を始めとするブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌による複雑性尿路感染症患者を対象に、セフィデロコルの有効性および安全性を高用量のカルバペネム系抗菌薬イミペネム/シラスタチン（IPM/CS）と比較した国際共同試験です（2017年1月12日の[リリース](#)、2017年4月25日の[リリース](#)および2017年10月5日の[リリース](#)もあわせてご参照ください）。

既存の抗菌薬が効かない薬剤耐性菌は、特に多くの抗菌薬に耐性を持つ場合に「スーパーバグ」と呼ばれ、人類の健康にとって世界的な脅威となっており、WHO や CDC も、薬剤耐性菌、特にカルバペネム系薬に耐性を示す緑膿菌、アシネトバクター・バウマニおよび腸内細菌科細菌に対する新たな抗菌薬の必要性について警鐘を鳴らしております<sup>\*1, 2</sup>。

塩野義製薬は、感染症領域を重点領域のひとつに定め、世界を感染症の脅威から守るため感染症治療薬の創製に注力しております。これからも人々の健康を守るために必要な感染症の治療薬を、世界中の患者さまのもとにいち早くお届けすることができるよう、努めてまいります。

以上

### 【参考文献】

\*1 CDC. Antibiotic resistance threats in the United States, 2013.

[www.cdc.gov/drugresistance/threat-report-2013/pdf/ar-threats-2013-508.pdf](http://www.cdc.gov/drugresistance/threat-report-2013/pdf/ar-threats-2013-508.pdf)

\*2 Tacconelli E. Global priority list of antibiotic-resistant bacteria to guide research, discovery, and development of new antibiotics.

[www.who.int/medicines/publications/WHO-PPL-Short\\_Summary\\_25Feb-ET\\_NM\\_WHO.pdf](http://www.who.int/medicines/publications/WHO-PPL-Short_Summary_25Feb-ET_NM_WHO.pdf)